



政策プロモーション動画 映像制作概要

制作の背景

これまで大人が中心となってきた社会を「こどもまんなか社会」へと変えていくためには、こどもや若者自身の意見を聴き、その声を大切にし、こどもや若者にとって何が良いことか、ともに考え取組を進めていくことが大切です。当事者であるこどもや若者の視点に立ち、こどもたちが今感じていること、大人へと伝えたいメッセージを動画を通して発信し、「こどもや若者の声が尊重される社会を目指す」そんな気持ちを込め、こども施策を一層推進していくことを目的として作成しました。

テーマ

取手市こども計画策定にあたり、こどもや若者を対象に実施したアンケートの中で多く見られた「もっと話をよく聞いてほしい」という意見。大人はこどもたちが「話を聞いてほしい」と思っていることを知っているのだろうか・・・？そんな疑問から、「自分の話を聞いてほしい」と感じているこどもや若者の想いにフィーチャーした動画制作を進めることにしました。

アーティスト「奥野智萌」さんとの関わり



奥野 智萌 おくのちほ
Chiho Okuno

1998年京都生まれ。東京藝術大学大学院 美術研究科 先端芸術表現専攻 博士後期課程在籍。
ウサギ、海亀、蟹、人魚など、異なる身体を持つ生物を通じて物事を再解釈し、連想ゲームのように導かれたモチーフを用いて、新たな因果関係の可能性を探る作品を制作している。
2020年より、目と耳の両方に障害を持つ盲ろう者の通訳者としても活動。

東京藝大取手校地で学ぶアーティスト、奥野智萌さんによる高校生とのワークショップの企画・映像制作により、動画を作成しました。

高校生とのワークショップを通じて、「
「どういう時に話を聞いてもらえていないと感じるか」
「どういう風にしてくれたら話を聞いてくれたと思えるか」
「そもそも話を聞くとはどういうことか」について、
お話をしながらこどもたちの考えや想いをピックアップし、
アニメーションへとつむぎ出していきました。

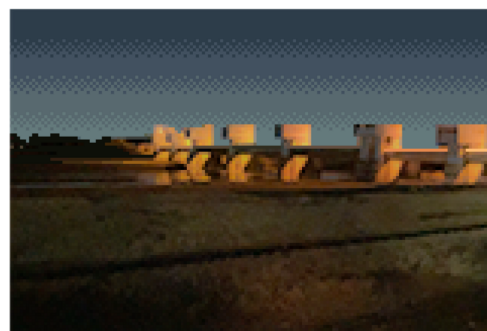
映像の主役はアイロンビーズで作成したキャラクター



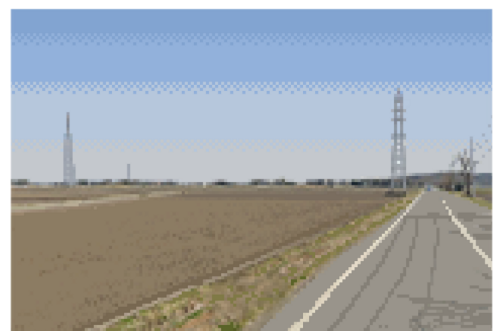
アニメーションに登場するキャラクターは、高校生がワークショップで意見交換をしながら、協力してアイロンビーズで作成をしました。また、映像の背景に登場するドット絵は高校生が取手市内でお気に入りの場所として挙げたところです。「話を聞くこと」は、簡単なようで意外と難しいです。「こどもまんなか社会」に向けてこどもも大人もともに取り組んでいく、はじめの一歩として、一緒に考えてみませんか？



河川敷の辺りが綺麗！



干上がっていると歩いていけるのが良い



田んぼが広がっているのを見て、わー！って思った